

基準 A 地域貢献

IV. 大学が使命・目的に基づいて独自に設定した基準による自己評価

基準 A. 地域貢献

A-1 地域社会への貢献

《A-1 の視点》

A-1-① 大学と自治体の連携

A-1-② 大学の地域貢献と産官学連携

(1) A-1 の自己判定

基準項目 A-1 を満たしている。

(2) A-1 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-1-① 大学と自治体の連携

八戸学院大学（以下、本学）は、建学の精神にある「現代社会が要請する有為の人材を育成する」ことを実現するため、開学以来、地域社会との連携を重視しながら教育・研究、地域貢献による人材育成を行ってきた。

平成 22(2010)年度より近隣 5 自治体と連携・協力協定を締結し、様々な地域貢献活動を行っている。特に、平成 26(2014)年度に八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センター（現附置機関名：八戸学院地域連携研究センター。以下、地域連携研究センター）に改組、名称変更されて以降、多様な専門性と人的・物的資源を活用し、青森県南の自治体との連携協定を結ぶことで、更なる地域貢献に資する環境を整備してきた。

本学と自治体との協定締結は、表 A-1-1 のとおりである。

表 A-1-1 大学と自治体との協定締結一覧（平成 29 年 5 月 1 日現在）

市町村	提携年月日	協定書名称
八戸市	平成 22(2010)年 9 月 17 日	八戸大学及び八戸市の農業経営者育成に関する協定書
八戸市	平成 25(2013)年 4 月 1 日	八戸学院大学と八戸市との産業振興連携協力に関する協定書
八戸市	平成 25(2013)年 4 月 10 日	スポーツ連携協力に関する協定書
新郷村	平成 26(2014)年 3 月 27 日	連携協力に関する協定書
階上町	平成 27(2015)年 3 月 26 日	連携協力に関する協定書（大学・短大）
五戸町	平成 27(2015)年 4 月 16 日	連携協力に関する協定書
八戸市	平成 27(2015)年 12 月 24 日	八戸学院大学、八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定書
南部町	平成 28(2016)年 3 月 23 日	連携協力に関する協定書

また、協定締結に基づく主な活動状況は次のとおりである。

1. 階上町との活動状況

平成 27(2015)年 3 月 26 日、八戸学院大学・八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）は、階上町と包括連携のもと、「相互に保有するまちづくり、健康づくり及びスポーツに関する情報、ノウハウ等を用いて協力し、生涯学習の推進と地域住民の健康増進、スポーツの活性化による社会発展に貢献すること」を目的とした連携協力協定を締結した。これに基づき、平成 28(2016)年度は、移住・定住の促進に繋げるべく階上町 PR 動

画を作成し、県内外イベントなどでの上映および階上町ホームページへの掲載を行った。また、「第 18 回はしかみ臥牛山まつり」、「第 30 回はしかみいちご煮祭り」のステージイベントに本学の学生サークルが参加した。さらに、「はしかみ臥牛山まつり」と「はしかみいちご煮祭り」については、今後のあり方に関する「階上町イベント在り方検討委員会」に本学教員が委員として参画した。【資料 A-1-1】八戸学院大学・八戸学院短期大学と階上町における連携協力に関する協定書、【資料 A-1-2】町 PR 動画製作業務委託契約書等

2. 五戸町との活動状況

平成 27(2015)年 4 月 16 日、八戸学院大学・八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）は、五戸町とお互いの所有する資源を活用しながら、地域の振興と相互の発展を目指して、相互の理解と連携を円滑に行うために、五戸町地域内での活動を中心とした連携協力協定を締結した。これに基づき、平成 28(2016)年度に、「まちの駅整備基本構想」策定への協力、五戸町が有する地域資源（馬肉、あおもり倉石牛、青森シャモロック等）を活用した商品開発事業（本事業は平成 29(2017)年度までの 2 年間）への協力を行った。平成 29(2017)年 3 月には、五戸町が有する地域資源を活用した商品開発事業に係わる「五戸町の三大美肉と商品開発セミナー」を開催した。【資料 A-1-3】八戸学院大学・八戸学院短期大学と五戸町における連携協力に関する協定書、【資料 A-1-4】五戸町が有する地域資源を活用した商品開発事業について、【資料 A-1-5】五戸町の三大美肉と商品開発セミナー

3. 八戸市との活動状況

平成 22(2010)年 9 月 17 日、八戸大学（現校名：八戸学院大学）は、八戸大学及び八戸市の農業経営者育成に関する協定を締結した。これに基づき、平成 28(2016)年 1 月 11 日に平成 28 年度八戸農業ビジネスナイトセミナーに本学の教員を講師として派遣した。

平成 25(2013)年 4 月に、スポーツ連携協力に関する協定を締結した。これに基づき、平成 28(2016)年度に、幼児や児童を対象とした「ジュニアサッカー教室」を開催した。

平成 27(2015)年 12 月 24 日、八戸学院大学・八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）は、八戸市と健康福祉に関する連携協力協定を締結した。これに基づき、平成 27(2015)年度から八戸市介護人材発掘育成事業（ケアワークパスポート研修）を行っている。【資料 A-1-6】平成 28 年度八戸農業ビジネスナイトセミナー、【資料 A-1-7】平成 28 年度八戸市ジュニアサッカー強化事業実績報告書、【資料 A-1-8】八戸学院大学・八戸学院短期大学及び八戸市における健康福祉連携協力に関する協定書、【資料 A-1-9】八戸市介護人材発掘育成事業「ケアワークパスポート研修」

A-1-② 大学の地域貢献と産官学連携

1. 地域における看護提供事業（まちの保健室）

平成 25(2013)年度から、八戸市に開設された青森県看護協会が主催の「まちの保健室」において、看護学科の教員が地域住民の健康増進と健康教育のために健康相談や血圧測定などを行い、地域住民が健康に暮らしていけるよう支援をしている。【資料 A-1-10】平成 28 年度青森県看護協会はっち「まちの保健室」当番表、【資料 A-1-11】第 45 回(平成 28 年度)青森県看護学会誌

2. 八戸版地域シンクタンク

平成 19(2007)年 10 月 26 日に締結された「八戸工業大学、八戸大学及び八戸工業高等専門学校」の学術交流に関する協定」第 3 条「協力事項」において、「地域の活性化に寄与する活動」が盛り込まれ、これを基に「八戸版地域シンクタンク」が結成された。「八戸版地域シンクタンク」は、上記 3 校の学長・校長および八戸市長で構成される「八戸市都市研究検討会」が決定した調査研究テーマの調査実行機関として位置付けられている。この「八戸版地域シンクタンク」は、テーマごとに編成されるプロジェクトチームという形式を採っている。

平成 28(2016)年度の研究成果は、次のとおりである。

研究テーマは、「ヘルスケア産業創出可能性に係る研究－観光振興を視野に入れて」であり、本学は「はじめに」、「第 1 章 次世代ヘルスケア産業－国・青森県の取組」、「第 2 章 八戸圏域ヘルスケアに係る現状と課題」、「第 3 章 ヘルスケア産業の創出の可能性 (3) 健康経営プロジェクト、(4) スポーツ合宿誘致プロジェクト、(5) フルーツポイントプロジェクト」、「おわりに」を執筆し、報告書全体の枠組みを設定し、政策提言を行った。【資料 A-1-12】ヘルスケア産業創出可能性に係る研究－観光振興を視野に入れて

3. 地域の企業との連携状況

● 三八五流通グループ

平成 28(2016)年 4 月 14 日、八戸学院大学・八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）は、「三八五流通グループと相互に緊密な連携協力と情報の共有を図り、三八五流通グループ従業員の健康管理および地域の健康増進に資する」ことを目的に連携協力協定を締結した。平成 28(2016)年 11 月 25 日に三八五流通本社講堂において、グループ 25 社の管理職 62 名を対象に「健診の意義を理解する～生活習慣病にならないために」という演題で看護学科の教員による講演を行った。また、平成 29(2017)年 5 月には「健診結果を解釈する～その後の体調管理に活かすために」について講演を行う。【資料 A-1-13】八戸学院大学・八戸学院短期大学と三八五流通グループとの健康連携協力に関する協定書【資料 A-1-14】三八五流通グループ第 1 回健康管理セミナー「健康診断（健診）の意義を理解する」【資料 A-1-15】三八五流通グループ第 2 回健康管理セミナー「健診結果を解釈する」

● 株式会社デーリー東北新聞社

平成 27(2015)年 8 月 5 日、地域連携研究センターは、株式会社デーリー東北新聞社との間で、「それぞれが保有する設備、情報、ネットワーク等を用いて相互に協力し、地域社会の発展に貢献する」ことを目的に包括的連携協力協定を締結した。これに基づき、知的書評合戦「ビブリオバトル in 八戸」や「ジュニアサッカー教室」を共催した。【資料 A-1-16】八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センターと株式会社デーリー東北新聞社における連携協力に関する協定書

● 東北アイスホッケークラブ株式会社

平成 27(2015)年 5 月 8 日、地域連携研究センターは、東北アイスホッケークラブ株式会社との間で、「それぞれが保有する設備、スポーツ技術のノウハウ等を用いて相互に協力し、地域住民や学生のスポーツ教育の実施、スポーツマネジメントによる社会発展に貢献する」ことを目的に包括的連携協力協定を締結した。これに基づき、平成 28(2016)年度は、同社

が運営する東北フリースタイルの選手を対象とした福祉や会計など9講座を、本学教職員が実施した。【資料 A-1-17】八戸学院大学・八戸学院短期大学地域連携研究センターと東北アイスホッケークラブ株式会社における連携協力に関する協定書、【資料 A-1-18】平成 28 年度東北フリースタイル出前講座アンケート

● デイサービスセンターカローレ

平成 26(2014)年度に八戸学院大学人間健康学部（現校名：八戸学院大学健康医療学部人間健康学科）とデイサービスカローレとの間で、要支援者と要介護者の介護の進展を予防するため、運動プログラムの開発を目的とした「介護予防共同研究に関する覚書」を交わした。これに基づき、平成 26(2014)年度から年 4 回の施設利用者の体力・運動能力を測定し、個々に適した運動プログラムを提供することによる介護度進展防止の効果を検証している。【資料 A-1-19】八戸学院大学人間健康学部とデイサービスカローレにおける介護予防共同研究に関する覚書、【資料 A-1-20】個人に適した運動プログラムの導入による介護の進展防止効果の検証成果報告会、【資料 A-1-21】日本体育学会第 67 回大会予稿集 発表プログラムおよび要旨

(3) A-1 の改善・向上方策（将来計画）

地域連携研究センターの人的資源やネットワークを活用して、連携協定を締結した各自治体や企業とともに地域振興に関する研究と実践を継続して行う。

A-2 地域に密着した教育活動と人材育成

≪A-2 の視点≫

A-2-① 三八地域をフィールドとした教育活動

A-2-② 地域発展に資する人材育成

A-2-③ スポーツを通じた地域貢献

(1) A-2 の自己判定

基準項目 A-2 を満たしている。

(2) A-2 の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

A-2-① 三八地域をフィールドとした教育活動

地域経済・文化に密着し、地域をキャンパスとした教育活動を展開するとともに、地域社会の発展に寄与することができる人材育成を行っている。

1. 教科「ビジネス特論Ⅰ（地域活性化システム論）」

ビジネス学部では、平成 24(2012)年度から地域活性化に資する人材の育成を目的として、「ビジネス特論Ⅰ（地域活性化システム論）」を開講している。平成 28(2016)年の講義の内容は、(1)地域活性化の取組事例、(2)地域活性化と地域資源、(3)フィールドワークをとおして地域の活性化に求められる地域資源の有効活用の方策であった。【資料 A-2-1】「ビジネス特論Ⅰ（地域活性化システム論）」公開講座について

2. 教科「ビジネスフィールドワーク」

ビジネス学部では、ビジネスの現場におけるフィールドワークをとおして、地域産業への関心の喚起および課題発見・解決能力の育成を目的として「ビジネスフィールドワーク」

を開講している。平成 28(2016)年度の講義では、八戸市における IT・テレマーケティング企業の実態、業務内容とその動向、また、市内の企業の事業内容などについて、企業・職場見学も取り入れて授業を行った。

複数の訪問企業から、「近年八戸市の誘致企業として、IT・テレマーケティング関連企業の進出が活発であるが、その認知度が低いといった課題を企業側は抱えており、その解決策を考えて欲しい」といった要望があった。授業最終日は、この課題について受講生が解決策をレポートにまとめ、ディスカッションを行った。また、コメントシートでは、「授業前は、訪問企業の業務内容がわかりにくいものであったが、実際に企業を訪問するなど、職場見学も取り入れた授業であったので、業務内容がよく理解できた」などの意見を得た。

【資料 A-2-2】平成 28 年度ビジネスフィールドワーク実施要項

3. 教科「地域文化論」

健康医療学部では、平成 28(2016)年度から地域文化の歴史と特性、地域発展に貢献した先人の事例、地域活性化の現状と課題の解決策などについて理解することを目的として、地域の機関の協力を得て学内外の講師により「地域文化論」を開講している。本講義は学内だけではなく、一般市民も対象とした公開講座として実施している。【資料 F-12】履修要項、シラバス、【資料 A-2-3】「地域文化論」公開授業について

4. 種差海岸・階上岳フィールドワーク

健康医療学部人間健康学科では、学生と教員が共同で、種差海岸・階上岳をフィールドに、豊かな自然の下でのウォーキングが、心身に及ぼす影響について検証を行っている。

自然の中のウォーキングを習慣化することにより、心の健康づくりのみならず、生活習慣病（メタボリックシンドローム）の予防、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）の予防等が期待される。引き続きフィールドワークを行い、地域住民の健康増進活動に繋げる。【資料 A-2-4】種差海岸のストレス軽減効果について. Health Sciences, 31(4), 275-284, 2015、【資料 A-2-5】デーリー東北新聞 2015 年 6 月 21 日記事、【資料 A-2-6】平成 28 年度八戸学院大学特別研究費報告書（研究代表者：熊谷晶子）

5. 八戸学院大学健康医療学部・八戸学院短期大学看護学科公開講座

本講座は生涯学習の一環として、地域住民を対象とし健康に対する学習機会を提供することを目的に開催している。平成 28(2016)年度は「専門家が語る健康・福祉・癒し」をテーマに、八戸学院大学健康医療学部と八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）看護学科の教員による講座を行った。本講座は「あおもり県民カレッジ」の単位認定講座である。【資料 A-2-7】公開講座「専門家が語る健康・福祉・癒し」

6. 八戸学院大学健康医療学部・八戸学院短期大学看護学科合同健康調査

健康医療学部では八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）看護学科とともに、短命県返上と住民の健康意識の向上を目的とした健康調査を平成 23(2011)年から、三八地域（八戸市、階上町、南部町、新郷村）および岩手県洋野町の中高年を対象に行っている。健康調査では主に体組成、骨密度、握力、血圧、簡易ヘモグロビン濃度等の項目

について、教員の指導の下、学生が主体となり測定を行っている。健康調査で得られたデータは、住民の将来の健康づくりや体力づくりの策定に対する基礎的資料として自治体に提供されている。本調査は、学生のフィールドワーク活動の一環でもあり、講義で学んだ内容を下に、来場者へ結果をフィードバックする実践力やコミュニケーション能力を養う場となっている。【資料 A-2-8】過去 3 年間の健康調査参加学生・教員数、【資料 A-2-9】過去 3 年間の健康調査の測定参加者数

A-2-② 地域発展に資する人材育成

1. 地域連携研究センター

平成 26(2014)年 4 月 1 日、八戸学院大学・八戸学院短期大学（現校名：八戸学院大学短期大学部）の専門的な知見を積極的に発信し、自治体や産業界が抱える課題を解決するために、地域連携研究センターが設置された。地域連携研究センターの目的は「八戸学院地域連携研究センター規程」第 2 条に、事業内容は「八戸学院地域連携研究センター規程」第 3 条に示されている。

平成 28(2016)年度の活動は、以下のとおりである。

- (1) 受託事業 5 件
- (2) リカレント講座・公開講座 17 件

以下、「第 12 期起業家養成講座」、「第 9 回介護の学校 in 八戸学院大学」など代表的な 5 事業について説明する。

● 第 12 期起業家養成講座

起業家養成講座は「自分のロードマップ作り」、「ビジョン・ミッション・価値の創造」、「販売戦略」などの 15 講座を学内外の講師によりディスカッション形式で行い、受講者が具体的なビジネスプランを作成し、投資専門家などに説明・発表できる人材を育成している。【資料 A-2-10】第 12 期起業家養成講座

● 第 9 回介護の学校 in 八戸学院大学（介護従事者のための公開講座）

「介護新時代～そろそろ、新しい介護の話をしよう」をメインテーマに、学内外の講師による「全世代、全対象型の地域包括支援体制を目指して」、「介護福祉士養成現場からみた“介護の魅力”～生活支援技術の原点とは～」、「福祉と異分野融合の軌跡～無・低関心層を中心としたアプローチ方法の極意～」などの 17 講座を実施した。【資料 A-2-11】第 9 回介護の学校 in 八戸学院大学

● 第 1 回八戸学院大学健康医療学部看護学科「宣誓式」特別記念講演の地域への公開

健康医療学部看護学科の宣誓式は、看護学科の学生が看護の道を進む者としての決意を新たにする式典である。第 1 回宣誓式に向け、学生の実行委員と教職員が協力し運営準備を行っている。宣誓式特別記念講演は、「ヒューマンケアリングの輪を広げて看護教育の未来を創る」の演題で外部講師を招き、学生の保護者、地域の医療関係者や高校生にも公開する。【資料 A-2-12】講演「ヒューマンケアリングの輪を広げて看護教育の未来を創る」

● みちのく英語応用サミット

学内外の英語教育に携わる教員が、日本における英語教育に関する教授法などを事例報告やカンファレンスを通じて情報共有している。【資料 A-2-13】第 3 回みちのく英語応用サミット

● あおもりツーリズム創発塾 2016（ハチガクセッション）

本学教員が、観光客にとっての魅力を認識しやすい形に表現することに重点をおいたワークショップを開催した。学生、行政・企業や団体などの企画担当者とともに、観光客の立場から広報・PR を考える人材を育成するための表現方法や広報手法について議論し、ポスターなどを試作した。【資料 A-2-14】 あおもりツーリズム創発塾 2016 ハチガクセッション

A-2-③ スポーツを通じた地域貢献

平成 26(2014)年度から八戸市とのスポーツ連携協定の一環で、八戸市におけるサッカーの振興、地域の活性化、青少年の健全育成を目的として、幼児や児童を対象とした「ジュニアサッカー教室」を定期的で開催し、ジュニアサッカーの競技力向上、ジュニアサッカー人口の拡大に寄与している。平成 28(2016)年度は合計 24 回実施した。【資料 A-2-15】平成 28 年度八戸市ジュニアサッカー強化事業実績報告書

平成 28(2016)年度の県教育委員会主催の「アスリートとのスポーツ交流会」で、本学ラグビー部コーチがタグラグビーの指導を行った。【資料 A-2-16】平成 28 年度アスリートとのスポーツ交流会

平成 26(2014)年度から階上岳チャレンジヒルクライム大会に、八戸学院大学（自転車競技部、女子サッカー部、硬式野球部、ラグビー部）が運営実施において協力をしている。【資料 A-2-17】第 3 回 階上岳チャレンジヒルクライム大会

平成 27(2015)年度から男子サッカー部が被災地支援の一環で、大槌町を訪問しサッカー教室を開催している。【資料 A-2-18】報告書八戸学院大学男子サッカー部復興支援サッカー教室（大槌町）

(3) A-2 の改善・向上方策（将来計画）

本学の公開講義および地域連携研究センターの各種公開講座・スポーツ教室の活動をとおして、地域に密着した教育・人材育成活動を進め、地域住民の要望に積極的に応える。

【基準 A の自己評価】

本学は、近隣自治体や企業と連携協定を結び各種事業を展開している。特に八戸市との連携では、八戸農業ビジネスナイトセミナーへ講師を派遣し、幼児や児童を対象とした「ジュニアサッカー教室」を開催し、八戸市介護人材発掘育成事業（ケアワークパスポート研修）の企画運営などを行った。また、「八戸版地域シンクタンク」の活動では、ヘルスケア産業創出可能性に係る研究を行い、政策を提言した。

教育活動では、ビジネス学部「ビジネス特論Ⅰ（地域活性化システム論）」、「ビジネスフィールドワーク」を開講し、三八地域の地域資源活用と方策について、講義やフィールドワークを実施している。

健康医療学部では、地域の特性を理解するために「地域文化論」を開講している。さらに、学生が主体となって地域住民の健康調査を行い、住民の健康・体力づくり策定の基礎資料を作成し、各自治体に提供している。

人材育成についても、本学両学部の公開講義の実施、地域連携研究センターの各種講座や各種スポーツ教室の開催などにより、地域活性化に貢献している。